

びっと・いん



イタリア伝統のお菓子

シベリさんの

「I Dolci Sivelli」

トアロード山手にできた
お菓子屋さん。グリーンの
かわいいお店なので、気に

なっていた人も多いのでは。

摂津本山にあるパン工房
「パニフィチョ・シベリ」
のお菓子工房が独立してで
きたもので、店名は「シベ
リさんのお菓子たち」とい
う意味。オーナーはイタリ
ア人・シベ
リさん。

「パニフィ
チョ」は日
本で初めて
のイタリア
人によるパ
ン屋さんだ
そうだ。

オーナーのシベリさんを囲んでスタッフのみなさん



ここでは
イタリアの
伝統的なお
菓子が並ぶ。
代表的な焼
き菓子「カ
ントウッチ」
(420円)、



かわいい店先には緑がたくさん

木いちごやマンゴーなどの
果物とチョコレートをませ
て作った「スプレッド」は、
パンやスコーンにつけたり、
ヨーグルトにかけて食べた
りするもの。珍しい。冬は
チョコレイトのお菓子がた
くさん出てくるとか。夏は



かわいらしいスイーツたち

デコレーションも楽しい焼き菓子



イタリアンジェラート。果
汁100%のフルーツと、
六甲の水で作ったさわやか
な味。パイン、アプリコッ
ト、青りんご(315円)
など、北野の坂道で疲れた
ら、喉を潤してほしい。

摂津本山の「パニフィチョ」
でも人気だった「ファゴティ
ニ・パイシュー」(189円)
は、パイシューの元祖で、
シュー生地をパイで包み、
オレンジ風味のカスタード
がたっぷり。パン工房から
毎日2回届けられるできた
てのパンや、自家製ポロー
ニヤハムのサンド(368
円)なども。

店先にはオリーブの木な
ど緑があふれていて、グリー
ンの壁が印象的。ヨーロッ
パの田舎風のあたたかみの
あるお店を、とデザインさ
れたものだそうだ。お菓子は、
宅急便、クール便による
全国発送も受け付けてい
るので、神戸にあるイタリ
アの味を、プレゼントにも
いかがでしょう。

■イ ドルチ シベリ

神戸市中央区山本通3-1-23

☎078-1241-7427

10:00~19:00 無休



シャンソン歌手・西脇葉子さんがご紹介の「ロルカ」



いかにスペイン!
FOOD & WINE
「フェデリコ・ガルシア・ロルカ」

東門筋から少し西へ入った路地にあるお店。黄色いドアが目印の「ロルカ」。名前はスペイン・グラナダの詩人ロルカからで、店内は白い壁のまるで穴ぐらのよう。アンダルシア地方のジブシーが住んでいる洞窟をイメージしたというから、なるほど。

オーナーの濱中さんは、スペイン料理だけでなく、フレンチや和食の厨房にも立っていたことのある料理人。料理のメニューも、スペイン風にこだわらずフレンチなどもまじっている。ウサギのソテー、バスク風(800円)、仔羊の香草焼(550円)など、現地の食材を使った珍しいメニューや、濱中さんがスペインに行ったときに買い付けて来るハモンセラノ(生ハム)、ウサギのパエリア(900円)、パスタやスペインオムレツなど、とても豊富。濱中さんはもっと気軽に飲んで食べるバルのような店にしたかったらしいが、本格的な料理を濱中さんひとりが作るので、お客さんも腰をすえてしまうようだ。ドリンクは豊富にそろわうインとビールが中心で、600円〜700円程度。

■ロルカ

神戸市中央区下山手通1-3-13

☎090-8141-9850

17:30〜翌1:00

(日祝日14:30〜翌1:00)

水曜休

安い・早い・おいしい
惣菜酒家「福家」

このお店の前は、穴門で22年続く惣菜屋さん「福家」だった。朝早いのがしんどいし、なんかお店ができないかと惣菜酒家にしたとか。メニューは昔からお店に並んでいたあたたかい家庭料理のお惣菜が中心で、お料理は奥さんの岡崎貴美子さんが作り、ご主人のタケシさんとふたりできりもりしている。「立ち飲み感覚でしよう」と思ったそう、店内は奥に伸びたカウターと、テーブル席がひとつ。

メニューはポテトサラダ、枝豆、厚揚げなどが200円、唐揚げ、コロッケ、きんぴらなどが300円、大盛りの剣先するめが500円など、どれも安く、早い。近くのサラリーマンやOLが、仕事帰りに寄って一杯飲んでいくことが多く、あまり広くないお店はすぐにいっぱいになってしまいか。立ち飲み感覚の気軽なお店なので、暑いときにもちよっと寄って飲んで帰るのが嬉しい。生ビール

中450円、酎ハイ350円、日本酒400円、特選焼酎もあり。あまり長居せずにはっと飲んで帰りましょう。

■福家

JR元町駅南穴門商店街

17:00〜22:00

日曜・祝日休(たまに土曜も休み)



穴門商店街の小さなドアが目じるし

お惣菜メニューがずらりと並ぶ「福家」



イベント スケジュール

2004.7-8

ART

幻想と詩とエロチシズム
の寺山修司◎映像詩展

7/24(土) 8/6(金)
11:00~19:00

(7/27・8/3休館)

神戸アートビレッジセンター

(高遠「新開地」駅徒歩2分)

当日一般1500円

学生1300円

前売り券、回数券あり

◎問い合わせ

☎078-5112-5500

<http://kavc.or.jp>

演劇実験室◎天井敷数を
主宰し、革命的な演劇作品
を残し、詩、小説、映画、
写真、競馬など、芸術・文
化の多彩なジャンルに、い
ずれも天才的な才能を示し
た寺山修司(1935-1
983)。その世界は、今
も色褪せることがない。

今回は、寺山没後20年を
機に、彼が手がけた映像作
品を上映する。元天井敷数
の森崎偏陸を迎えたワーケ



「バラ色のダンス」

ショップなども開催。上映
予定作品は『書を捨てよ町
へ出よう』『田園に死す』
『トマトケチャップ皇帝オ
リジナル完全版』他。上映
時間、料金等はホームページ
または直接会場へ。

同時期、KAVCホール
では、60年代から80年代に
かけて隆盛したアングラ演
劇の公演ボスターを集めた
「ジャパン☆アヴァンギャ
ルド」を開催。状況劇場、
天井敷数など、アングラ劇
団、小劇団の傑作ボスター
が集結。入場無料。

ベネチア選抜展

7/14(水)~18(日)

原田の森ギャラリー

(阪急「王子公園」駅徒歩5分/
旧興立近代美術館)

入場無料

◎問い合わせ/AU

☎0798-641-5730



世界最大
の国際美術
展・ベネチ
アビエンナー
レ。公式の
国別展や、
企画展以外にもたくさんの
展覧会があり、2005年
からパフォーミング部門が
設けられるためのデモン
ストラクションとして招待さ
れ、今年のビエンナーレで
は、現代美術家・嶋本昭三
が招かれ、ヘリコプターか
ら絵の具を落とすパフォー
マンズを行ない話題を集め
た。

嶋本昭三が主宰する「A

U」が、2005年のビエ
ンナーレに出品するために
作品を募集した選抜展。ビ
エンナーレの委員からの企
画にもとづく展覧会。

MUSIC

山根信明

テノールリサイタル

8/14(土)15時開演

ピアジュリアン

(J.R. 阪急「三宮」駅北/近藤
ビル9階)

2500円(1ドリンク付)

◎問い合わせ

☎078-1391-8081



1992
年よりドイ
ツ・ヴッパ
ータル歌劇
場の専属ソ
リストとして多くのオペラ
で活躍、エッセン歌劇場な
どへ客演、以降、ドイツや
世界各国で活躍するテナー・
山根信明の来日リサイタル。
神戸のクラシックライブハ
ウス・ピアジュリアンで、
シューベルトの歌曲集「美
しき水車小屋の娘」(全20
曲)を披露する。

GALLERY

北村佳子展

ギャラリー・サーカス・サー

カス

(地下鉄「栗庁前」駅4番出口西
側)



7/19(月)7/31(土)
11:00~19:00 水曜休館
☎078-1382-10689

色と遊ぶ 野口毅展
「少年(14歳)が
発見した世界」
ギャラリーミウラ (北野坂)

8/3(水)8(日)

11:00~19:00

☎078-1391-2665



藤井和久展(京都)

ギャラリー創

(京都ホテルアネックス1階)

7/3(土)~17(日)

☎075-1251-0522



兵庫のまつり-ふれあいの祭典 「ふれあいT.A.J.I.M.A四季彩」開催中

但馬地域全域で、春・夏・秋・冬、楽しいイベントが盛りだくさん。
今年も但馬がよろしい!

●7月の主なイベント()内は開催場所

7/1(木)~8/10(日) 但馬の風景百選フォトコンテスト (兵庫県立
但馬ドーム)

7/18(日) 清長の瀬まつり (但馬町西谷) 矢田川まつり (村岡町大
平公園)

7/24(土)・25(日) 香住ふるさとまつり (香住浜一帯)
7/29(木)~8/2(月)あさご芸術の森アートフェスティバル (朝来町)
7/30(金) 竹野海上花火大会 (竹野町)

■ふれあいの祭典実行委員会事務局 ☎078-362-3992

<http://web.pref.hyogo.jp/info/hureai>

●ライブハウス・スケジュール 7月

■チキンジョージ

TEL.078-392-0146
<http://www.chicken-george.co.jp>
 3(土) けんたろう!と遊ぼう!
 5(月) FINE AIR NIGHT4
 6(火) BONNIE PINK 2004 TOUR
 7(水) J&B
 8(木) 山弦 (小倉博和+佐橋佳幸)
 9(金) Do you to+73
 10(土) ORANGE RANGE LIVE TOUR
 11(日) SHKALABBITS
 13(火) CHARA TOUR 2004-私に似た景色-
 14(水) キナコ、真夏の歌花火
 17(土) 18(日) 19(月)
 Three Days of GOSPEL Night
 20(火) BECAUSE THE NIGHT 11
 25(日) 森大造&伍福広 他
 26(月) BECAUSE THE NIGHT 12
 27(火) Black In Town TOUR
 30(金) DEPAPEPE キヨタツトム 他
 31(土) knock on the chicken's door!

■ピアジュリアン

TEL.078-391-8081
<http://www.pia-julien.com>
 1(木) 小林亜紀子(vn)森川留理子(p)
 2(金) 佐藤成(クラリネット)若原洋(ヴォーカル)植田浩徳(p)
 3(土) 小横岡一(f)藤原友紀(p)
 4(日) 中島佑和(vn)上田裕子(p)
 6(火) 朝日野子(vn)若原洋(ヴォーカル)藤江圭子(p)
 7(水) 中村真美(a)藤深優子(p)
 8(木) 近藤美香(p)
 9(金) 西本淳(sax)植田浩徳(p)
 10(土) 宮崎万里(vn)植田浩徳(p)
 11(日) 奥野香織(p)
 13(火) 折川真理(vn)中元智子(p)
 14(水) 萩原次巳(ヴォーカル)藤江圭子(p)
 15(木) 小笠原薫(vn)山内尚子(p)
 17(土) 飯田亜紀(f)鈴木重幸子(p)
 20(火) 佐々木千(ヴォーカル)津島雅(ヴォーカル)藤江圭子(p)

21(水) 東口泰之(ファゴット)大成雅志(クラリネット)
 22(木) 近藤美香(p)
 23(金) 沼田暁一(トランペット)藤深優子(p)
 24(土) 本吉優子(vn)田中靖子(p)
 25(日) 藤村匡人(バロン)長谷智子(p)
 28(木) KYOTO弦楽四重奏団
 29(木) 上戸明子(f)落合敏(p)
 31(土) 福島紀子(vn)佐田めぐみ(p)

■Holly's

TEL.078-251-5147
<http://kobe-hollis.com>
 1(木) 長井美恵子(p)坂崎拓也(b)松田"GORI"広士(dr)
 2(金) 原麻未(vo)他
 3(土) ゴスペルThe Earth of Piece
 8(木) 大内玲子(p)カルテット
 9(金) 名倉学(p)&Monkey Soul
 10(土) 大川YOKO(vo)世古昌義(p)坂崎拓也(b)植田浩徳(p)
 15(木) 山口エミ(vo)他
 16(金) 西田仁(p)トリオ
 17(土) HANNY(vo)松永誠祐(p)川野祐哉(b)
 22(木) 鈴木久美子(sax)他
 23(金) 藤村麻紀(vo)西田誠(g)
 24(土) 今西哲(vo)森田裕子(p)
 29(木) Session Night
 30(金) 森あすか(vo)他
 31(土) 小林美鶴(vo)松永誠祐(p)

■萬屋宗兵衛

TEL.078-332-1963
<http://www.soubei.net/>
 3(土) Elevenses
 4(日) 石田ヒロキand friend
 5(月) 村井ゆかり(vo)安本貴宏(g)神前信秀(b)西谷圭一(dr)
 7(水) 張プロジェクト/張智仁(key)石橋博文(g)ハチロー(b)村尾浩次(dr)

9(金) 阿部大輔(g)島山令(b)松田"G ORI"広士(dr)
 10(土) 影山朋子(マリンバ、vib、perc)浅井良将(as)李祥太(p)甲斐正樹(b)清水勇博(dr)
 11(日) 寺地達弘(g)トリオ
 12(月) ami(vo)水木陽子(p)
 13(火) 浅井良将(as)&李祥太(p)デュオ
 15(木) ジュスカ・グランペール(ジブシー・ジャズ)
 16(金) Do-Ja
 17(土) すくいくる(コンテンポラリージャズ)
 18(日) 1st. Hiroko's Beautiful Smile / 2nd. ささばん
 19(月) 平原誠之(ヴォーカル)クラシック
 20(火) Gemini 2004 Summer Tour - 諸刃のアートギター- 屋うかんバス- マルカート
 21(水) Ballad Mania
 25(日) Yongmi live魂-ありのまま生きる-
 30(金) Big Friendly Jazz Orchestra (高砂高校ジャズバンド部)
 31(土) Funny4 Live

■WACA2

TEL.078-333-6768
<http://www.h3.dion.ne.jp/~waca>
 19(月) よしだよこ まっちゃんLIVE Vol.54
 以降未定 ※詳細はホームページへ

■SONE

TEL.078-221-7009
<http://kobe-sonne.com>
 1(木) 那須淳子+トリオ
 2(金) Yoshika+トリオ
 3(土) 藤井貞泰トリオ+北荘桂子
 4(日) ロイヤル・フラッシュ・ジャズバンド
 5(月) 新井雅代+トリオ
 6(火) ポンビ柿本+トリオ
 7(水) 幸島寿美子+トリオ

8(木) 河村恭子+トリオ
 9(金) 北荘桂子+トリオ
 10(土) 宮野英子+トリオ
 11(日) 鍋島直純カルテット+大越理加
 12(月) 西田あつ子+トリオ
 13(火) 橋本裕千太郎カルテット+山内尚美
 14(水) キャンディー浅田+トリオ
 15(木) 古谷充カルテット
 16(金) 幸島寿美子+トリオ
 17(土) ベティ鞍富+トリオ
 18(日) 藤井貞泰トリオ+新井雅代
 19(月) 北荘桂子+トリオ
 20(火) Yoshika+トリオ
 21(水) 新井雅代+トリオ
 22(木) ジャネット+長谷川元伸カルテット
 23(金) 新井雅代+トリオ
 24(土) 大越理加+トリオ
 25(日) 八木隆幸トリオ+南ルミコ
 26(月) 浅香久志カルテット
 27(火) 溝口恵美子+トリオ
 28(水) 岩宮美和ひかり+ギタートリオ
 29(木) 北荘桂子
 30(金) 大越理加+トリオ
 31(土) 新井雅代+トリオ

■Maiden Voyage

TEL.078-805-0899
<http://www.koyo.net/maiden-voyage>
 2(金) はまーず vs TAKE4
 4(日) 絹原一寛クインテット+藤井史緒
 6(木) まえすろ
 7(水) JAM・JAM・JAM/ホスト中嶋
 10(土) ラテン祭り/VAMP
 11(日) 池田裕志+柴田達司
 12(月) Jam Session/ホスト須藤雅彦(g)他
 13(火) MNT
 17(土) KINZO
 19(月) THE GLOBAL JAZZ ORCHESTRA
 26(月) Jam Session/ホスト須藤雅彦(g)他

愛読者チケット プレゼント

●神戸市立博物館「栄光のオランダ・フランドル絵画展」
 (7/17・10/11) ペア5組
 ●市民映画劇場8月例会「ベックカムに恋して」(8/20・21
 産業振興センターホール) ペア2組

●映画館招待券

●バルシネマしんこうえん(湊川公園) 2名
 7/7・16 「女はみんな生きている」ポリーヌ
 (この期間中女性900円) 7/7・17・18 「クイール」ラプストリー
 7/17・29・8/6 「美しい夏キリシマ」ジョンヤンの酒家」8/7・17 「ラストサムライ」コンフィデンス」

●シネモザイク(ハーバーランド) 2名

7/10 「スパイダーマン2」
 7/17 「ポケットモンスター」
 7/24 「シュレツタ2」
 8/7 「サンダーバード」

※応募方法

ハガキかファクシミリで①希望するチケット(劇場名) ②住所・氏名③電話番号④今月号の感想を書いて〒650-0011 神戸市中央区下山手通2-13-1 建創ビル4階(FAX078-333112795)「月刊神戸子チケットプレゼント」係までお送り下さい。



★第3回谷崎文学のついで
残月祭開催

芦屋市谷崎潤一郎記念館では、谷崎の誕生日である7月24日に〈谷崎文学のついで〉残月祭を開催している。

今年には谷崎晩年の傑作と評される「癡癡老人日記」をとりあげ、ヒロイン彌子のモデルとされ、晩年の創作に大きな影響を与えたという渡辺千萬子さんと谷崎



谷崎晩年の最高傑作「癡癡老人日記」

研究者たつみ都志さんの対談「フィナーレに華をくらぐ谷崎晩年の女神・千萬子」、そして朗読グループRST

のみなさんによる作品「癡癡老人日記」や「往復書簡」の朗読を聞き、谷崎の名作を味わう。対談を通して当時の貴重なエピソードも語られる。

■7月24日(土)14時開演(13時会場)／芦屋ルナ・ホール大ホールにて。参加費2000円で全席自由。お申込は往復はがきに、住所・氏名・電話番号・返送先を明記の上、谷崎記念館宛「残月係」まで。締切は7月10日(土)。定員になり次第締め切る。

■〒659-0052芦屋市伊勢町12-15

☎0797-23-5852

http://www.ashiya-

web.or.jp/fanizaki/



神戸の一大夜祭り四万六千日大祭

★摩耶山天上寺
四万六千日大祭

摩耶山天上寺では毎年恒例行事である四万六千日大祭を取り行なう。四万六千日大祭は、一年を通して摩耶の観音さまのご利益を最も多くいただける日として知られており、この日に観音堂(金堂)へお参りする一日で四万六千日お参りしたのと等しい功德とご利益があるとされている。

8月8日と9日のさかいの時刻、すなわち9日午前0時にはご本尊の観音さまに向けて天から除災招福の星がくだるといふ伝えられ、昔から神戸の一大夜祭りとなっている。

■問合せ／摩耶山天上寺

☎078-861-2684

誕生日
ありがとう
運動



得体の知れない

イラクで落命した記者は「社会の中にしぶとく生きている『得体の知れない何か』に挑んでいました。障がい者を「かわいそうに」と感じるのには心偏った思いが籠っています。だから体も言葉も滑らかに動き出せません。偏見は得体の知れたものです。身近にいると別の感慨がきつと滲み出てきます。

地域に障がい者の活動拠点を設けると、理解者の多寡に振り回されるのは積み残した課題を(ルビ・あらた)めるようです。理解を得ること共に暮らすことが同時に進行します。男女の垣根は均等法で外されました。施設解体のうねりが障がい者の問題を解く勢いに高まって欲しい。しぶとく何かを追求人は求道の先達です。

水澄し流れに向かひ廻る
汝が勢ひよ微かなれども
(茂吉)

M

誕生日ありがとう運動本部
〒650-8790神戸市
中央区中町通4・2・11村
上ビルB1

TEL FAX 078・3
6011257

★ヘアカラー専門店
JOB 15000円で白髪
が染まる

「薬剤代金は別やけれど
白髪染めが15000円で
できるよ」「ウツソー!」

「ホンマや」

JR元町駅東口の高架を
越えて、鯉川筋東側にある
カレパンの店の3Fの

HAIR COLOR JOB、

へ早々に行ってみた。

浦田佳代さんと息子の賢
志さん母子が二人で始めた
ばかりなので予約が必要。

おしゃれ染めも、マニキュ
アも19000円。ヘナハー
ブ染めが25000円+薬剤

代金、ヘナサロ

ンロイヤルも5

5000円(薬剤

代含む)プレシャ

ンプ15000円。

トリートメント

8000円という

安さなので何回

も通えそう。

「髪を大事に、

毛髪改善をせひ

してあげたい」

と意欲的。出来

上がりはなかな

かい!

■650-00012中央

区北長狭通3-1-9潮海

ビル3F



浦田佳代さんと息子の賢志さん

花時計



★小さく光る神戸に

「スモールイズビューティ
フル」。月刊神戸っ子も、2
003年の500号からリト
ルマガジンの原点スタイルに
再生して7月号で517号を
迎える。

B5版で5年。印刷代が1

00万円やすいからと泣く泣
くスタイルを変えた。それま

での37年間の伝統は恐ろしい
ものだ。身につかないスタイ
ルのなかで悪戦苦闘。

いま、原点にもどって女性
の皆さんから「ハンドバッグ

に入るのよ」とコンパクトな
サイズを喜んでいただき、創

刊時代からの淀川長治先生の
復刻版頁に、声援が贈られて

くる。

改めて、神戸っ子のハイカ
ラ伝統を、ありがたいと身に

沁みている。

☎078-3333-7373

■定休日/毎週月・第3

火曜日。受付時間/10時

19時

※ ※ ※

朝、北野界限を散策すると

「小さな結婚式」という看板
をあちこちで見かける。小さ

く光る「ラブリーな結婚式」
は好評のようだ。「ちいさな

レストラン」も「小さなお菓
子屋さん」もシエフやパティ

シエの愛がこもって素晴らしい。

神戸の魅力は「小さく光
る」オンリーワンの宝石たち

をちりばめたところに輝きが
あるとつくづく思う。

(M・K)

KOBE POST

★6月18日「旧神戸居留地煉瓦
造下水道」と共に、栄町通りの
「フットテクノロジー」(藤田稔社
長)が新たな登録有形文化財に
選ばれた。

同ビルは1921年(大正10
年)保険会社の出張所として建
設された鉄筋4階建て。1階部
分の外壁に花崗岩が張られ、大
正ムードのある建造物。フット
テクノも8月中旬に、ヘルササ
イエンビルとしてオープンさ
れる予定。

★藤F.M.わいわいが「新サホー
タイズ組織」を5月29日に設立
した。長田区海運3-1-3-18

★劇団おもちや箱(主宰/ゆら
きじゆん・森孝之)が移転。〒
658-0053東灘区住吉町

4-1-13真砂ビル3F ☎07
8-821-5535JR住吉
駅南側すぐタクシローターリ

東側真砂寿司の上

★傑つるや衣装展(島田敬子社
長)の島田光夫会長が5月31日
に亡くなられ、6月30日(旧神戸

ポートピアホテル借業の間にお
いて「お別れ会」開かれた。

「島田光夫君とお別れする会」。
代表世話人・柏木健一/世話人・
瀧川博司・今津成生、寺本混、
井植貞雄氏ら。

★傑たこの童(木村満也社長)
の「ご母堂・木村君子さん(83才)
が6月17日に亡くなられ、青谷

川の真照寺においてお通夜、18
日にご葬儀が。先に他界された
ご主人の木村憲吾さん(90才)

の百か日だった。
★KFSの会員・米田博司さん
が6月10日に亡くなられ、平安
祭典西神会館でお通夜と翌日に
ご葬儀がとり行われた。心より
ご冥福をお祈りいたします。



重廣恒夫の山歩き教室

(8)

ウェアの選び方と快適ウェアリング



山歩きのウェアは、思わぬ天候の急変にも対処できるように、住んでいる環境からの発想ではなく、目的の山の高度や季節の変動による最悪の状態を頭に描いて準備すべきです。

晴天が予測される時でも、それぞれの季節に応じた必要最低限のウェアのほかに、突然の雨や風による気温の低下に対応できる防風着や防寒着、雨具は必需品です。富士山登山では天候による気温の変化が大きいので、夏でもアンダーウェアも用意しておきます。行動中は天候の変化や体温の変化に合わせて脱いだり、着たりを臨機応変におこなうことが必要です。疲労を少なくするコツは行動や環境変化による体温の調節をうまくおこなうことです。下着や靴下などの着替えや予備は必ず用意し、汗や雨で濡らさないようにビニールなどの防水袋に入れておきましょう。

防風着は一般的にウインドブレーカーと呼ばれるもので、薄くコンパクトになる物で十分です。雨具を転用して携行重量を減らすこともできます。

防寒着はウールのセーターや薄手のダウンジャケット・ポリエステルファイバーを両面起毛させたフリースも軽く使用範囲の広い素材です。重ね着を考慮してサイズのゆったりした物にしましょう。シャツは保温性に優れ、汗をかいたり雨に濡れたりしても冷たさを伝え難いウールやウールとポリエステルなどの混紡の長袖が良いでしょう。パンツと共に着用時間が長いので、購入時には実際に着用してサイズや着易さを確認しましょう。

ズボンは歩き易いものを選びましょう。膝の動きの楽なのはニッカーですが、最近では綿やナイロン、ポリエステルにポリウレタンを混紡や交織した縦・横に伸びる

素材を使用したパンツが主流です。特にポリエステル素材は軽くて水切れが良いので、沢登りなどにも使えます。真夏はショートパンツも快適ですが、足が傷つきやすいことと気温の変化を考えると使用範囲が限定されます。

たとえ好天が予想される日帰り登山でも雨具は必ず持参をしましょう。数種類の素材が用意されていますが、防水・透湿素材を使ったものが蒸れ難く快適です。防水性に優れた雨具でも強い風雨や急勾配の登りでは、パンツの裾から靴の中に水が浸入してしまいます。そんな場合はスパッツをパンツの外側ではなく内側に装着して裾の紐を締めておけば、濡れることは少なくなります。

長く使用しているものは縫製部分のほころびやファスナーの点検、撥水加工等のメンテナンスも忘れてはいけません。装備も人間の体と同じようにこまめな点検と手入れが必要ですよ。

（しげひろつねお）

1947年山口県徳山市生まれ。71年オニツカ（現アシックス）に入社。73年エベレスト南西壁の世界最高点（当時）へ到達。77年、日本人としてK2に初登頂。80年、北壁からの新ルートでチョモランマ登頂。88年のチョモランマ交差経走（日本・中国・ネパール三国及好望山峠）では、登攀隊長として、世界最高峰を舞台にした世界初の交差経走を成功に導く。92年、当時未踏の最高峰であったナムチャバルワの初登頂を指揮。96年、日本百名山を13日で連続踏破した。



第9回六甲山トレッキングツアー (5/26)

六甲山縦走、完結!!

3回に分けて行われた六甲山全山縦走が、ようやく完結。須磨からスタートし、ゴールの宝塚までの、長い長い道のりを一步一步、と足を進め、全山縦走が楽しい思い出になったようです。

海船港

運河で巡るオランダの街・町・まち

文・上川庄二郎



■かみかわ しゅうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、大阪産業大学非常勤講師。

【電柱のない街・町・まち】

チューリップ・風車・チーズそれにゴッホやレンブラントといった画家に代表されるオランダ。十七世紀には、日本も長崎の出島を通じて、唯一開国していた西洋の大海運国・オランダ。私たちのオランダに対するイメージはこういったところに象徴される。

ご多分に漏れず、私たちは、そのチューリップ・風車・チーズに惹かれて、運河で巡るオランダの旅を試みた。そして驚いたのが、阿姆斯特ダムはおろか、どの「まち」に行っても電柱のないことに気づいたことである。しかも、どの「まち」も、その中心部には中世からのマルクト広場があり、歴史の薫り高い建築物で取り囲まれている。周囲は運河が張り巡らされていて、水運によって交易がなされていたことを忍ばせる。随所に跳ね橋が掛かっており、どこも絵になる風景ばかりが目につく。その運河や港は、今はヨットやクルーザーが所狭しとひしめき、周囲は、レストランや土産物店で賑わっている。

このような光景を見て日本を顧みると、街中は蜘蛛の巣を張り巡らすようにやたらと電柱・電線が多くて汚らしく、凡そ絵になる風景なんてお目にかからない。街並みも均整が取れているどころか、勝手気ままな建物が我が物顔に自己主張しているだけ。

こうしてみると、神戸の「まち」も、決して美しい「まち」とは言い難い。これでは、もっと観光客に来て欲しい「まち」にしたいといっても難しい。これでは外国人の来なくなる「まち」と言えるであろうか。

【デルフト・ブルー】

デルフトも、マルクト広場を中心に運河の張り巡らされた「まち」であることに変わりはない。しかし、一味違うのは、デルフト・ブルーと呼ばれる陶器「デルフト焼」のブランドで世界に知られているところである。古くは中国の景德鎮や日本の有田焼の「青」が、



現在のデルフト・ブルーの原点だったのである。考えてみれば、東インド会社を通じての東洋との交易から学び、自国のブランドに仕上げた知恵には敬服するに値するものがある。こんな知恵を拝借したいものだ。

また、デルフトには陶芸専門の工科大学もある。このような地場産業と連携した学術の振興も大切な視点である。その点で神戸商船大学（現神戸大学海事科学部）は、神戸港にとっては掛替えのない教育機関である。PIへの移転を今一度真剣に考えてみてはどうだろうか。

【風車の並ぶキンデルダイク】

オランダは風車の国。脱穀、製材、灌漑、排水とあらゆるものの動力源として風車を使い、地場産業を盛り立ててきた。その風車も一時期九千基といわれたものが一千基弱にまで減少しているという。実用的には、風力発電用として新しい現代的な風車が海べりに林立する光景に出くわす。

古い風車は、保護文化財として守ってゆこうという姿勢であるが、その数の多さと周辺の運河に沿って見られる光景はキンデルダイクを置いて他にない。まさに、オランダを代表する観光資源といっても良い。さしずめ神戸で言えば、明治の頃に建てられた洋風建築を観光資源として大切にしてゆくことだろうか。

【トラムの似合う“まち”アムステルダム】

二十世紀初頭から導入されたというトラムは、アムステルダム中央駅を基点に放射状に伸びる線と、“まち”を扇形に取り巻く運河沿いに走る線が交錯するよ



うに敷設されている市街地を網羅している。人口は一五〇万人といふことだから

ほぼ神戸と同じ。最近では、コンビニノと呼ばれるLRVが大量に導入され、多くの市民が利用している。私も実際に乗ってみたが、窓が大きく低床なので目線が低く、街中を歩いてみる感覚で楽しい。また、線路内は、自動車の通行は可だが、ドライバーにとっては暗黙の了解があるのか、トラム優先の感じがしたものである。狭い街路は単線にしてゆき違い運転をし、トラジットモール化して自動車は通行させず、歩行者天国になっている。何故こんなことが日本でできないのか。あまりにも自動車中心の“まち”にし過ぎた嫌があるとしか言いようがない。これからの、市街地再生のためにも、神戸から新しい視点でまちづくりを目指してもらいたいものである。

【オランダは、ヨットの似合う“まち”】

マリーナは、ダウンタウンに近いところになくならない、と言ってきたが、今回、オランダで沢山の運河を見てきて思うことは、私の考えに間違いはなかったということである。細かく説明するには紙面が足りないので省略するが、基本的に人の呼べるアトラクションはダウンタウンに近くなってはいけない、というのが鉄則である。今度のオランダの旅でこのことを痛いほど感じさせられたのは言うまでもない。

神戸のマリーナ候補地は、神戸港の第一突堤から第四突堤の間、それに兵庫運河である。ここは、思い切った兵庫運河の両端を跳ね橋にしてヨットやクルーザーを呼び込んで如何？ オランダを神戸港活性化のお手本として考えてはどうか、幹線道路に跳ね橋？ など

んて言わずに考えて欲しいものである。



映画「写楽」エキストラ体験記

中右 瑛

古くは浪曲で、いまはTV・映画・演劇でお馴染の「森の石松代参」で知られた金毘羅さん。旅の守護神、船の神様として古くから知られている。拜殿は山の腹にあり、何千段もの石段を登ることで有名で、江戸時代から全国の参詣客で賑わう。

その参道のほど近くに、ロケ先の「金丸座」はある。いまは、「こんびら大歌舞伎」が年に一度、古いしきたりにのっとって歌舞伎が興行される。

「金丸座」は現存する芝居小屋としては最も古く、天保七年（一八三六）に建築された木造二階建。いまは国の重要文化財に指定されている。二階の棧敷観客席も含めて七百五十人収容可能。昔は千人以上も詰め込んだという。江戸時代の芝居小屋の遺構をよく伝え、手動の廻り舞台、スッポン、花道などが設置され、畳敷きの榭席や、棧敷席などあり、天井には百五十六個もの吊りちょうちんが華やか。しかし照明はローソク（仕込み電飾）の他は、一切自然光線をとり入れている。見るからに江戸時代の雰囲気を出している。あたかも弥次喜多の気分させ、江戸時代にタイムスリップしたかのようだ。金丸座はまるで浮世絵の世界である。

某月某日、エキストラとしてははるばる東京から金丸座に乗り込んだのは「写楽」映画プロデューサー・フランク・堀さんらの肝いりで、映画の製作総指揮の、いわば映画の大スポンサー（榊西友会長・高丘季昭氏ご夫妻をはじめ、有名アパレルメーカー社長ご一統、その他銀座のビル・オーナー社長夫妻ら、ご家族、奥様

方、それに加えて、西友所属のマラソン優勝者の谷川真理さんとコーチ、映画製作関係者ら総勢20名程の一行に、私ら夫婦が神戸から参加したのである。名づけて「写楽連」。

映画「写楽」が金丸座ロケをもってクラシク・アップという記念すべき日に、「写楽」を支援する人たちが構成された面々「写楽連」ご一行が、はるばるかけたのであった。

しかし、谷川真理さんの映画出演に待ったがかかった。ストップをかけたのは陸連。「アマチュア選手が陸上以外の公のものに出演するのは、アマチュア規定に反する」というのが理由。谷川真理さんは「せっかく金丸座まで来たのに……」

美しい町娘の扮装までしたのに……と残念がることしきり。

エキストラとはいももの、生まれてはじめて丁髷姿、大島田姿、ドーランの顔、可笑しいやら恥かしいやら。それでも一同ソワソワしながらお化粧に余念がない。

白髪まじりの髪を出され、

「ワシは若い髪がよい……」

「町人はいや、侍の髪にしてくれ！」
と、駄々をこねる人もいたりして、カツラ師さんなんてこ舞。

「セリフがない！」と注文をつけたり、大騒ぎ。
ある社長は、自分がかぶる髪の下に「郷ひろみ」とサインしているのに気づいた。カツラ師さん曰く、



こんびら大歌舞伎「金丸座」

「この髪は郷ひろみ用です」
それを聞いて、小踊りしたのは例の社長さん。すっかり二枚目気分になって、

「わしは郷ひろみや」
と大のこ機嫌。

八十過ぎの白髪の某有名会社重役の奥様は、大島田姿になったトタン、四十歳も若返り、おぼつかない足元もシャンと立ち、元氣洗剤。

変身は人々の身も心も若返らせる。そんなうれしい気分にしてくれるのである。

一同、不安と緊張のあと、人さまざまに、江戸町人に見事に変身したのであった。

貸元の親分風から、色街の旦那とおかみ、良家の奥様と娘たち、と扮装のカツラ、キモノとその人柄によってさまざまに変わる。私たちは大家風の夫婦といういでたちである。

ワイフは、この髪は頭に合わない……とくやしがることしきり、ワイフに合うような大きな髪はないのである。

「ヨイ、スタート」

篠田監督の声は、マイクを通して金丸座の外にも伝わる。金丸座の周囲の道路は、本番の声がかかると、一切遮断するという念の入れよう。自動車のクラクションが金丸座の内部にまで筒抜けとなり、撮影に支障をきたすからである。本番ともなると全員が緊張、裏方も大変である。

最終ロケ撮影は、金丸座の歌舞伎シーン。この映画の見所のひとつは歌舞伎シーンがふんだんに盛り込まれていることだ。

五代目市川團

十郎に扮する中

村富十郎丈の

「蘭平物狂い」

の舞台。一階は

地元エキストラ

でうめられ、我々

「写楽連」は二

階棧敷から見物

するというシー

ン。

舞台の袖には、

岩下志麻さん扮するおかん率いる大道芸人の集団が、そのシーンをじっと見つめる。クライマックスの張りつめた場面。その直後に事件が起こるといふ設定である。観客席には葛屋重三郎扮するフランキー堺さんがいる。十返舎一九の片岡鶴太郎さんがいる。喜多川歌麿の佐野史郎さん、若き北斎の新人・永沢俊矢さんの面々。

「成田や……」

大向うから声がかかる。熱気あふれんばかりの迫力。小屋全体はゆれんばかりに興奮する。

NGもたびたびある。何回もリハールの後、本番で真田広之さんが見事なトロンボをきり、ほっとしたのも東の間、見学者のカメラのフラッシュで、やり直し、となることもあった。トロンボを見事にやり遂げた真田さんの気落ちは当然だが、見ている我々もガッカリ。

篠田監督は、さまざまなアングルでフィルムに収めたのである。撮影は、早朝から夕刻まで明るいうちに取っ行なう。ライトも余り使わず、自然光線が唯一のたよりという実に前代未聞の方法。一日十時間撮影しても、使えるフィルムはその内のたった一分間分あるかないか、だという。

遂に最終ロケは終わった。映画用語でいうクランク・アップである。

プロデューサー・フランキー堺さんは川島雄三監督が果せなかった写楽映画化の夢を、三十数年ぶりに実現させたのである。私は、映画に打ち込む生き活きとしたフランキーさんを目の当たりにして、フランキー

さんの役者ロマンを感じとった。

思ったより温厚でやさしい篠田監督、礼儀正しい青年スター真田広之さん。

ワイフは、美しい岩下志麻さんと一緒にスナップ写真が撮れて、「感激だわ!」と、ミーハー気分の日だった。

■中右 瑛（なかう・えい）

抽象画家。浮世絵・夢二エッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数



左から岩下志麻さん、筆者、ワイフ (94.6.4)

■みだら夜話／第十八回

七夕祭り

あさき またら
浅黄斑〈作家〉

絵・犬童 徹



七夕だから七夕の話、というのでも我ながら芸がない気もいたしますが、この一月から続けている「十二月」という手まり歌の解説の手前、お許し下されたく。さっそく七月の項を見ますに、次のような歌詞でございます。

浮気なかばに付ける文月、折にふれての七夕客も、盆の間は踊りかこつけ、娘仲居を口説き取るのが音頭床とよ

文月というのが七月というのは、ご存じですよね。フミツキとか、フツキと読みます。七月のメインイベントである七夕に託して、人々が文をしたためるので文月と申すのでありますな。

天保三年（1832）に見聞春暁という人が編纂した『大日本年中行事大全』という和書によりますと、畿内の七月の行事としては、

六日 京 今夜児童色紙短尺に歌を書、竹竿の先に結び種々の燈籠に火を点し、河原に行て川に流す。是を七夕おくりといふ。

七日 内 七夕 乞巧奠

十三日 京 今日より十六日まで市中盂蘭盆会を修す。法華宗、十五日まで。京 王子祭、寺中十二坊より踊を出す。

十四日 京 盂蘭盆会

十五日 山 長谷岩倉花園燈籠踊 松ヶ崎題目

踊 畑枝の地藏祭 加茂念仏踊 嶋原太夫踊今夜より八月一日まで

十六日 京 白川しよがいな踊 賀茂はねそ踊というふうな行事が紹介されております。右記の歌詞とつきあわせれば、なんとなく意味がくみ取れるのではないのでしょうか。乱暴に解釈すれば、竹竿や笹に短冊を結びつけるのにかけて、付け文をして女を引っかけようというのです。

さて七夕祭りが現在の姿のように落ち着くには、実は長い年月がかかっておりますが、元はといえは中国の行事で、これが乞巧奠（きっこうでん）といって、衣服や書物の虫干しをしたり、牽牛と織女の伝説にあやかって人々が願い事をする日となったようであります。乞巧というのは技巧のこ

とで、中国でも韓国でも、この日、女性たちが裁縫の上達を二つの星に願うのであります。一方、我が国でも機織りを意味する棚機（たなばた）が七夕の読みとなって、いろんな要素がくっついていった結果、やれ京都の冷泉家の和歌上達行事とか、やれ交野市にある星田神社こそが、七夕祭り発祥の元祖であるとか、今となっては、なにがなにやら分かりませんですな。

ただひとつ確かなことと言えば、牽牛と織女の伝説だけで、元は夫婦だった二人が天帝を怒らせて離ればなれになってしまい、年に一度だけ会うことができる、というお話は小さな子供でも知っています。この伝説が中国から日本に入ってきたのは奈良時代で、このロマンチックな話は大いに日本人に受けて、あっという間に広まったわけです。でも、正直なところをいうと、ちょっとばかり変えられてしまっているんですね。

牽牛星というのは、わし座の主星でアルタイル、日本では彦星と呼ばれます。一方、織女星は琴座の主星であるベガですが、旧暦の七月七日ごろ、この二星を隔てる天の川に白鳥座が大きく羽を広げて、あたかも橋を架けたように見える。伝説では、この白鳥座はカササギ（鶴）ということになっていて、この鶴の架け橋を織女が華麗な車に乗って押し渡し、威風堂々の牽牛の元へ——というのが、元々の中国の伝説であります。つまり物語の主役は織女なわけです。

ところが、これが日本の習俗には、ちょっと合わない。ひたすら亭主の帰りを待ちわびる女房、といった悲恋物語が日本人の好みでありますからして、ついには、主役は彦星というふうに変えら

れてしまった。鶴の架け橋を渡っていくのは、元の伝説とは違い、彦星のほうということになったんですね。

ところで二星とか二つ星、あるいは夫婦星とか星の契り、などといった俳句の季語があります。もちろん七夕伝説からきた牽牛星と織女星のことですが、なんと二星さんという変わった苗字を持つ方が神戸にはいらっしやいます。読み方は、どうやら「にほし」というらしいんですが、七夕関連の一族なんでしょうか。それも、神戸市西区榎谷町の松本地区にかたまっていて、一族の神社である二星神社というものであります。

さっそく見学に出かけたのですが、残念ながら由来までは分かりませんでした。ただ全国に二百五十戸ほどあるらしいことが分かっただけです。ただ先に書いた冷泉家に伝わる祭りでは二星と書いて「たなはた」なのと、姓氏類別大観によると、天武天皇の第四王子が文室氏の姓を賜わり、その流れをくむ一族に二星氏が見えます。どなたか情報をお寄せくだされば、ありがたき幸せ、と付け加えて、今回はあまりエッチな話題がないまま終わります。



■浅黄斑（あさぎ、またこ）推理作家。一九四六年神戸市生まれ。西神ニュータウンに在住。一九九二年小説推理新人賞、一九九五年日本芸家クラブ大賞を受賞。日本芸家協会、日本推理作家協会などに所属するとともに、日本芸家クラブ関西支部長、「きょうも風さえ吹きます」(「ちよんがれ西鶴」)「走る死体」(神戸・真夏の雪祭り殺人事件)など著書多数。

放し飼いの

出石 アカル

絵・菅原 洗人

題字・六車 明峰

「オーブンさせた時の気持ちを忘れんなら、店は繁盛する。最初は、どんな客でもええから来て欲しいと思ってる筈や。その気持ちを忘れんなら大丈夫や。そやけど店が調子ように行き始めたら、あの客は好かん、この人は嫌やと、店の方で選ぶようになりよるんや。それがこの喫茶店ちゅう商売なんや」

開店して間もないころ、こんなアドバイスをして下さったお客さんがいたのを、十六年経った今もわたしは忘れてはいない。しかし、正直言って、

二度と来てほしくない人というのも、やはりあるのである。

先日のこと、バートの久保田さんが、薄汚れた裸の子どもの手を引いて出勤して来て驚いた。おしめをしただけの二歳ぐらいの男の子である。久保田さん、やさしい人なのだ。その信号の所でウロウロしてたから危ないと思って、と。

名前も何も言わない。泣きもしない。話しかけると、こちらの顔をシロッと見るだけでまるで無関心である。ところがおやつをあげると、お腹が



空いていたのか、バクバクとよく食べる。ミルクも飲む。無邪気なものである。恥ずかしがりも怖がりもしない。何とも不思議な子どもである。この辺りでは見たことがない子だ。警察に電話して来てもらうしかない。

店に見えるお客さんが、面白がって次々と相手になっっている。裸のままにはしておけないので、家内がうちの子の昔のお古を探し出してきて着せてやる。見違えるように可愛くなる。椅子に座らせると、足を宙にブランブランさせて遊んでいる。隣に座ってやると、わたしは昔を思い出してしまった。

「お家に帰りたいやろ？」と言うと、即座に首を横に振って「いやっ」と言う。家出して来たのだろうか、それとも捨て子か、と思ったりする。

「捨て子やったら、うちで育てよか？」と、半分本気で家内と話したりしたら、お巡りさんがそこから辺りを聞き込みして、母親を捜し出して来てしまった。わたしはちょっとがっかりである。

お巡りさんにも厳しく叱られた母親であるが、礼と詫びを言うのかと思いきや、ふて腐れた態度である。髪の毛も乱れたままで、いかにも不精者といった風体。

家は、広いバス通りの信号を二つも越さなければならぬという。二歳の子どもが一人でやってくる場所ではない。危険極まりない。

「何してたんですか？」と詰問すると、テレビを見ていたと、まるで楽しみの邪魔をされたと言わんばかり。

主婦が小さな子どもを放ったらかして、朝からテレビとは、と開いた口がふさがらない。子どもはというと、母親の姿を見ても泣きもせず、駆け寄る訳でもなく、やはりシラッとした顔で何事でもない。わたしが不思議そうにしていると、この母親、とんでもないことを言った。

「うちはいつも放し飼いにしますから」と平然である。どうも常習犯らしい。子どもを抱こうともしない。お巡りさんを含め、取り囲んだわたしたちは哑然、呆然である。虐待よりましとはいえ、二歳のわが子を「放し飼い」とは。

さらに、わたしのこめかみをひくつかせる言葉。「後で財布持って、コーヒーでも飲みに来ます」と、この店の売上に協力してやるという態度。

「コーヒーでも」とはなにごとか！

「来んといて！邪魔になるから来ていらん」と、わたしは思わず叫んでいた。

しかし、とんだ親がいるものだ。こんな人には、二度とこの店に出入りして欲しくはない。

ところで「放し飼い」という言葉、念のために『日本国語大辞典』を引いてみると、本来の意味の他に「子どもなどを放任しておくこと」とあり、使用例として、「叔母さん叔母さん、お勢さんを使用例として、放飼はいけないよ」（二葉亭四迷・浮雲 他が出ていて驚いた。そんなこと辞書に載せるなよ、と思ってしまう。わたしは好かん。

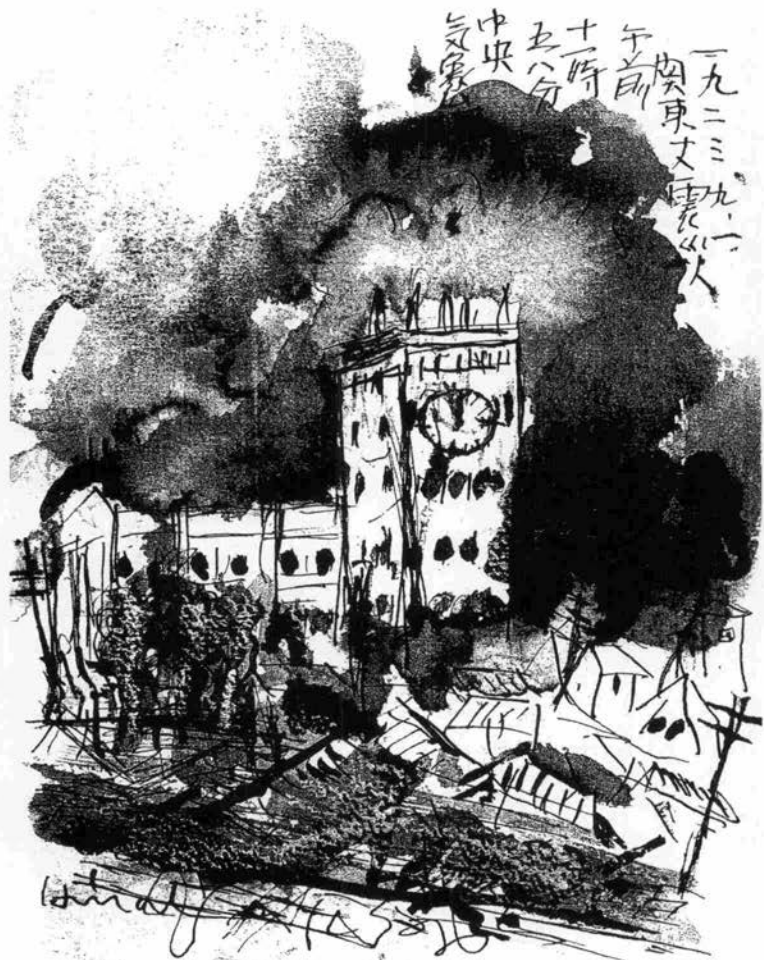
いずし・あかる 43年兵庫県生まれ。「風蝶花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会員。詩集「コーヒーカップの耳」(編集工房ノア刊)にて、2002年度第31回フルメール賞文学部門受賞。

■新連載小説／⑦

鏡の中のサムライ

中野 順哉

絵・題字 平田 郁



大正一二年九月一日午前一時五八分。伊豆大島付近の海中に発した地震は、東京湾、相模湾一帯に激震を与えた。正午近くの災害と言うこともあって、各所で火の手が上がり東京は七割、横浜は六割が消失。沿岸海底の地形は大きく変わり、死傷者は一四万人にものぼった。世に言う「関東大震災」である。休六が手にした号外は、まさにこの大災害の第一報であった。

「こゝこれは、なんてことだ」休六は出すつもりであった父への手紙を懐にぐいとしますと、全速力でホテルへ駆けていった。

「こんなことがあって良いものか。薩摩隼人が命をかけて立ち上げた日の本が、たった一日でこの有様だ。なんてことだ……なんて我々は非力なのだ。近代日本もこれじゃ砂上の楼閣ではないか」

号外に掲載されていた銀座・浅草・新吉原の惨状やうずたかくつまれた死体の山の写真。休六は走りながらぎゅっと目をつぶって、頭を左右に激しく振った。説明の付かない憤りや焦りのようなものが止めどなく胸のうちから溢れ出てきた。今にも大声で何かを叫びそうだった。しかし何も声にはならなかった。

「どないしたん。落ち着いて、さあ、こっちに来よし」と寿美子は息せき切って飛び込んできた休六を、客の目に付かないように店の奥へと引き入れた。この頃ではすでに休六も店の名物男となっていたのだが、今の様子はただことではなかった。「大変です！さ……砂上の楼閣にいるんです！そいつが崩れたんです！」

「何を訳の分からんことを言うてるの」「これを見て下さい！これを！」と休六はかたく

握りしめた号外を寿美子に渡した。寿美子はいぶかしげにそれを手に取ると、しばらく黙って読んだ。

「おやまあ、こりゃえらいこと。ちょっと！ちょっと！」寿美子は号外をもって夫や職人のところへ駆けていった。

それ以来この日は地震のことで話しがもちきりであった。客も、ベルボーイも、レストランの従業員もよるとさわると地震の話題。夕方頃にはその話しがだんだんと大きくなり中には「これは地震なんかと違うらしいで。なんでも仕事をなくした朝鮮人が暴動を起こしたっちゅうやないか。首都をたたきつぶしてクーデタでも起こす気やないか」などと言いつつも出てきた。

「ほな何かいな、今まで無駄に税金食らうとった軍人もそろそろ出番やな」

「あほ、滅多なこと言うもんやない。それよりも今帝都は敵の巢窟や。どうやって同胞を助けるかが先決やな」

そんな言葉が飛び交う中、休六は浮かぬ顔で、じっと職人さんの髪を切るいつもの風景を見ていた。午後七時をまわり、そろそろ店じまいをしようという時分になって、久々に大沢大勝が店に顔を出した。

「おう休六、元気にしてるか」

「元気になんてしてられるのですか。大沢さんも存じでしょ、東京がやられたって」

「あたりまえやないか。そんなこと知らんで商売できるかいな。で、それがどないしてん。お前がへこむことないやろ」

「いや、へこみますよ。だってそうじゃないです

か。僕は今、今後の日本のことを考え、何をもちらすべきか：自分に何が出来たかを考えているわけでしょ。ここにこうやって居候を決め込んでいるのも、ここが西洋の文化に一番近いところにあるからなんですよ。でもね、どれだけ修行をし、どれだけ自分の考えるべきことを考え、この国に新しい文化を持ち込んだとして、こんなにもろく崩れてしまうなら：一体、僕が今頭を悩ましている問題は、どこに答えを見いだすべきだと言うのでしょ。あまりにも空しいではないですか。東京は一日にして出来た都ではありません。多くの人の生命を飲み込んで立ち上がった都市なんです。それが：たった一瞬で：」

大沢はごほんとかいひをひとつすると、休六の横に腰掛けて煙草に火をつけた。

「なあ休六。確かにお前の言う通りかもしれない。わしは日本の将来とか文化とか、そんな難しいことは考えんが、お前の気持ちも分からんわけではない。でもな：もし、お前がわしの会社の部下やたらは倒ししてるところや。ええか、お前に今日一日わしがなにをしていたか想像がつくか」

休六は黙って首を横に振った。

「わしは今日自分の船を横浜に向けて十艘出した。現地を直接社員に見てこさせることがその目的でもあるけど：もしほんまに東京・横浜が壊滅状態やったら、本来そこで取引されるはずのもんが、山ほど宙に浮いてることになる。場合によっては捨て値でも誰かに引き取って欲しいもんがざくざくあるはずや。となれば：今後神戸の動きも激しゅうなる。じっとしてられるはずがないやないか」

休六は興味なさそうにため息をつくと「それは火事場泥棒というのではないですか」と吐き捨てるように言った。大沢は平然と頭を縦に何度も振った。

「そうかも知れん。しかしそれだけではないぞ。現地には難儀している人も多かろう。多分家を失い、家族を失った人たちがどんどん西へ逃げてくる。しかし話しによると東京、横浜の交通網はまず使い物にならないらしい。横浜港で人を乗せ、清水あたりで降ろす。そこまでくれば列車でいけるからな。海軍が直に船を動かすとは思うが：なに、国のやるこっちゃ。一週間はかかるやろ。そんなことでは助かるもんも助からん。荷物と一緒に人も助ける：これも日本人の商売人魂やね。もし休六の言う通り、文明文化というものがもういものだとしても、この民族には心意気というもんがある。金儲け一つとっても打算やない、人と人との心の問題やという心意気があるんや。これが無くなることの方がわしは怖い」

実際、関東大震災においてその被害の拡大を食い止めたのは、人々の自己犠牲とも言える助け合いであったと言われている。例えば被災地で家屋が倒壊した直後、火の手が回ってきているにもかかわらず、まずは隣家で生き埋めになっている人々を何人も助け、その後で自分の家より行李一個を抱えて飛び出す人が何人もいた。救出はしたものの母親が意識不明で、子供が一人泣き叫んでいる：そんな場合は、「このままこの子が一人になってはかわいそうだ」と母親に人工呼吸や水をかけるなどして、数人がかりで蘇生を試みた。隣家の子供がすでに亡くなっていても、「ご主人が帰って

きていないのに、このまま焼けてしまっただけは気の毒だ」と火の手の回っていない草原に運んで行った。みな食べ物を手に入れることも出来なかったが、少しでも余裕のある人は飯を炊き、にぎりめしを作って皆に配った。怪我人をかかえている被災者のかわりに市役所に行って何時間も並び、船で横浜を離れるための書類をもらってやった人も少なくない。列車で逃げてくる被災者を、各駅で青年団がむかえにぎりめしや水などを与えて慰めた。大沢のたった行動も、当時としてはごく常識的な範疇のものだったかも知れない。言い換えれ



はこの時代の企業人には日本人独特の「不文律」、
「美しき大和魂」とでも言えるものが、多くの人の血に脈々と流れていたのではなからうか。
さて、それから二週間が過ぎようという頃。朝早くに休六は寿美子の部屋に呼ばれた。部屋に入るとそこには既に先客があった。大沢である。
「休六、ちょっと相談やけど：お前、この機械、どう思う」
そういつて寿美子が指さした先には銀色に光る一メートル半ほどのいかめしい機械があった。それはまるでモップを逆さまにしたような形状で、



すらりと長い金属の細い円柱の先に大きな円盤がついている。そこからたこ足のようには黒い紐が何本もぶら下がっている。おおよそ理髪には関係のなさそうなこの機械を休六はじっと睨み付けていたが、これが何の役に立つものなのかさっぱり見当もつかなかった。

「どう…ってお内儀。これは一体全体…」

「はははははっ」と大声で笑ったのは大沢だった。「いや、思ったとおりの反応をしてくれど、これほどおもしろいことはない。さすがの休六にもこいつが何か分らんか、こりゃ愉快や」

「大沢さん、意地悪を言っていないで教えて下さいよ。これもその…震災現地の戦利品ですか」休六は少しふくれっ面をしながら大沢に尋ねた。

「まあ、そんなところかな。こいつはな、パーマネット機というもんや」

「パーマネット？それ何ですか」

「そんなもんわしが知るかいな。でもな西洋人の話によると、どうやら向こうではごくごく当たり前の髪型のことらしいぞ。ほら、このホテルでもようさんいるやないか。外人で、頭ちりちりにしてる女」

「ああ…え？あの髪型はこんな機械でつくるもんなんですか」

「そうやない」今度は寿美子が口を挟んだ。「パーマネットというのはこんな機械でつくるのではのうて、職人が手作業で髪の毛にカールをつくるんやと聞いている。ここに来る西洋のお客さんからもパーマネットは出来ないのかと尋ねられることはある。それが機械で出来るのやったら、職人に負担もかからんし：便利といえ便利やけれど…でもまあ、こんな東の端にまできて、わざわざ自慢の髪の毛をあずける夫人も少ない。大抵は紳士の来るところやから…よっぽど長く滞在するご婦人しか、この店には来ないでしょ。半端な額の機械でもないしなあ」

休六は急に黙り込んだ。そしてじっと目をつぶるとしばらく石のように考え始めた。

「おやまあ、いつもの病気がはじまった」と寿美子はため息を漏らすと、大沢と顔を合わしてくりと笑った。そして待つこと五分。休六は突然はちりと目をあけるとまっすぐに寿美子の目を見た。

「お内儀、この機械、私に使わせて頂けませんか」

「え？そやかてお前、理髪の勉強なんか今まで一つもしてへんやないか」



■中野順蔵（なかのじゅんざ）
一九七〇年生まれ。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。日本テレマン協会代表代行。上方講談の作家でもあり、すでに二十を超える作品が上演されている。

「そうです、それ故にこの機械を使ってみたいのです。お内儀は職人に負担はないと仰るが、一度この機械を店に入れば、きつと使うことも多くなり、職人さんはまた新しいことを勉強しなくてはならなくなるでしょう。きつと不満も出てきます」

「でも、お前みたいな理髪の素人が使うて、お客さんにもしも不都合が出た場合はどうするつもりや」

「だから…この機械の使い方をしつかり勉強するんです。見たところこの機械にはカミソリもバリカンも鉄も必要なさそうですし…もしかしたら、これは理髪とは全く違った髪の毛の分野なのかも知れません。お内儀も仰るとおり、さほどお客もいないのなら、まずはじっくり勉強し希望者にためしてみる…例えばまずはお内儀とか」

「いやや！もう、大沢さん、なんとか言うて下さいな」

その後も商談はそっちのけで、どっちつかずの談笑が続いた。休六はその間もじつと機械を見つめていた。そして心の中で静かにつぶやいた。「男主体のサロンはもう終わりだ。女が輝く時代をこの国も迎えるべきなんだ」と。



★フェルメール「画家のアトリエ」栄光のオランダ・フランドル絵画展
神戸市立博物館では、ウィーン美術史美術館所蔵の絵画コレクションから、16・17世紀のフランドル・オランダ絵画にテーマを絞った特別展を開催。この招待券をペア10組にプレゼント。
その時代を代表する巨匠たち、ルーベンス、ファン・ダイク、レンブラント、フェルメールの名品がそろった、栄光の時代の美の精華にふれてみよう。
■開催期間／7月17日(土)～10月11日(月・祝) 9時半～17時まで。金・土曜は19時までの場合翌日。

プレゼントメイト



■プレゼントメイトへのご応募は…

ハガキ・FAXに、希望するプレゼント名・郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・電話番号・今月号の感想を明記の上、下記宛先にお送り下さい。なお、商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。応募宛先〒650-0001 神戸市中央区下山手通2-13-3建創ビル401(有)月刊神戸っ子プレゼント係
TEL. 078-331-2246
FAX. 078-331-2795

17時まで。金・土曜は19時までの場合翌日。

■神戸市立博物館／神戸市

中央区京町24番地

☎078-3391-0035

★神戸市立小磯記念美術館
収蔵作品展Ⅱ



小磯良平「人間の壁」第46回1957年

今年より始った挿絵原画展が好評を得て、今回は「人間の壁」(石川達三著)の第2回目を紹介する。この作品展の招待チケット

トをペア5組の方にプレゼント。挿絵と小説のストーリーの展開をお楽しみ下さい。

■開催期間／8月1日(土)まで。開館10時～17時。毎週

月曜日休館。

■神戸市立小磯記念美術館

／神戸市東灘区向洋町中5・

7

☎078-857-5880

★大Oh!水木しげる展

誰もが知っている「ゲゲゲの鬼太郎」の作者・水木しげるの作品やキャラクターを紹介する展覧会にペア2組をご招待。空想と現実が入り乱れた水木しげるワールドランドをぜひお楽しみ



鳥取県でくつろぐ鬼太郎一家 ©水木プロ

下さい。

■開催期間／8月4日(水)～16日(月)。10時～19時半。会期中無休。

■大丸ミュージアムKOB

E

☎078-3331-8121

★市民映画劇場 ルネ・フェレ監督の「夕映えの道」



二人の女性の間に生まれる、温かな絆

パリの下町ルトレ通り。

この街角にひっそりと暮らす老女マドと、独身の中年女性イザベル。マドの生い立ちに耳を傾けるうち、イザベルは不思議な安らぎを感じるようになる…。

この映画の招待券をペア3組にプレゼント。余韻の残る静かな感動をどうぞ。

■7月16日(金)・17日(土)①11:00 ②13:30 ③16:00

④19:00(前売)300円・

当日1500円)

■会場／シーガルホール

(神戸文化小ホール)

http://www.kobe-eisa.com